

ひろがる「9条を守れ」の熱い連帯

憲法集会、円山音楽堂あふれる4600人超

平和への輪をつなぎ
ともに歩みましょう

いま、「憲法9条を守ろう」と、京都で、そして全国で、大きな連帯の輪が力強く広がっています。
5月2日、『憲法9条京都の会』が主催した憲法集会には、会場の円山音楽堂があふれる4600人を超える人々が参加。作家の瀬戸内寂聴さんとノーベル物理学賞受賞者の益川敏英・京都産業大学教授が記念講演・スピーチを行いました。

牢屋に入れられても
戦争反対を貫く

瀬戸内さん

瀬戸内さんは、軍国少女時代のこと、中国で終戦を迎えたことや、空爆直後のイラクを訪問したことなどに触れ、「釈

迦の教えは『殺すなかれ、殺されるなれ』、仏教の基本であります。私は牢屋に入れられても戦争反対を貫こうと考えております」「力がなくてもみんなが力を合わせれば強い力になるんです。地球上のあらゆる場所で戦争がなくなるように、世界の平和を守るようにしていただきたい」とユーモアを交え訴えました。

改定が政治課題になれば
反対の声起こる

益川さん

益川さんは、アメリカでの黒人大統領の誕生を例に「われわれの社会は進歩しています。必ず、戦争がなくなるような社会が訪れると思います」と語り始め、「9条改定が政治課題にのれば、必ず強い反対の声が沸き起こってくると信じている」「外交的な手段で戦争をやるくらの決心をしたら、外交的に解決しない問題はない」「理論物理屋なので理屈をつけないと収まりがつかないが、とにかくぼくは戦争が嫌いです」と会場から一斉に拍手が沸き起こりました。



益川敏英さん



瀬戸内寂聴さん



核兵器廃絶へ

世界に新たな動き

オバマ米大統領

「米国は核兵器のない世界を追求する」

「核抑止論」固執の日本政府

歴史的意義を持つ発言

オバマ米大統領の「米国は核兵器のない世界を追求する」というプラハでの演説（4月5日）は、「世界の核兵器廃絶をめざす新たな動きが始まった」として、世界が歓迎し注目と期待が広がっています。



オバマ演説に込めぬ被爆国の政府

オバマ発言に対する日本政府の一連の対応は、「日米安全保障体制のもとにおける核抑止力を含め、核拡大抑止が重要」（中曽根弘文外相）などと、「核抑止」と「拡大抑止」（「核の傘」）を維持することを、米国に執拗に求めることに終始する始末。「これが世界で唯一の被爆国の政府か」とマスコミからも批判の声が出ています。

批判の広がりに麻生首相は、5日、ベルリンの演説で「核軍縮と不拡散」を発言しましたが、核兵器廃絶に向けての具体的な行動については、何もないお粗末な内容でした。

被爆国であり、憲法9条を持つ日本こそ、核兵器廃絶へ積極的役割を果たすことが求められているのではないのでしょうか。

草の根運動が確かな力

オバマ大統領の発言には「核兵器のない世界」は「私が生きているうちは無理だろう」と述べるなどの問題点もあります。今求められることは、核兵器廃絶を正面の主題とした交渉を開始することです。各国首脳をその席に着かせるためにも、世界に「核兵器廃絶」を求める人々の、草の根運動の飛躍が求められています。

【オバマ演説の注目点】

- ①「核兵器のない世界」を米国の国家目標とすると初めて明示。
- ②核兵器を使用した唯一の国としての道義的責任を認め、核廃絶への責任を語った。
- ③「核兵器のない世界」にむけて世界の諸国民へ協力を呼びかけた。

